

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月9日
【四半期会計期間】	第62期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	高千穂交易株式会社
【英訳名】	TAKACHIHO KOHEKI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 戸田 秀雄
【本店の所在の場所】	東京都新宿区四谷一丁目2番8号
【電話番号】	03-3355-1111
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 広木 邦昭
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区四谷一丁目2番8号
【電話番号】	03-3355-1111
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 広木 邦昭
【縦覧に供する場所】	高千穂交易株式会社 大阪支店 （大阪市北区梅田三丁目3番20号 （明治安田生命大阪梅田ビル内）） 高千穂交易株式会社 名古屋支店 （名古屋市中村区名駅南一丁目21番19号 （本州名駅ビル内）） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第2四半期連結 累計期間	第62期 第2四半期連結 累計期間	第61期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(千円)	8,143,642	8,166,390	16,689,161
経常利益(千円)	315,726	223,955	827,176
四半期(当期)純利益(千円)	63,501	42,519	344,445
四半期包括利益又は包括利益(千円)	55,031	40,735	330,559
純資産額(千円)	13,509,606	13,379,729	13,501,813
総資産額(千円)	17,726,770	17,424,677	18,290,541
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	6.28	4.34	34.49
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	76.1	76.0	73.1
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,416,803	143,031	1,813,199
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	647,596	256,105	1,738,093
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	120,587	168,526	524,437
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	6,875,247	6,019,696	5,792,784

回次	第61期 第2四半期連結 会計期間	第62期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	4.55	8.80

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興関連需要などにより底堅さもみられますが、欧州や中国等の対外経済環境を巡る不確実性が依然として高いなかで、世界景気の下振れなどが、国内景気を下押しするリスクも懸念されます。

当社グループの経営環境は引き続き競争激化の状況にあります。新たな成長を見据えて、「独自の付加価値の創出」と「グローバルビジネスの本格展開」を中期事業方針に掲げ、その実現に取り組んでおります。

具体的には、システムセグメントでは、既存市場の強化に加え、前年度子会社化したTakachiho Fire, Security & Services(Thailand)Ltd.及びマイティカード(株)との事業シナジーを追求し、グローバル展開の加速や販路の更なる拡大を目指しております。一方、デバイスセグメントでは、新商品の立上げや独自の専門性の強化により、高付加価値ビジネスの確立と収益拡大を図っているほか、中国ローカル企業への機構部品の販売など、海外ビジネスを強化しております。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高では電子商品類が大幅な減収となりましたが、産機商品類が好調に推移したことに加え、前年度新たに加わった連結子会社の販売貢献により、前年同期比微増の81億66百万円となりました。

損益につきましては、企業買収に伴う販売費及び一般管理費の増加等により、営業利益は前年同期比38.2%減の1億94百万円、経常利益は前年同期比29.1%減の2億23百万円となりましたが、のれんの償却を織り込んだ計画を上回る結果となりました。四半期純利益は、投資有価証券評価損を特別損失として60百万円計上したことなどから、前年同期比33.0%減の42百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(システムセグメント)

システムセグメントの売上高は、前年同期比5.8%増の31億14百万円、営業利益はのれんの償却等により、前年同期比84百万円減の14百万円の損失となりました。

セキュリティ商品類では、データセンターで入退室管理システムの新商品が採用されたほか、アパレルショップ向けの販売が好調に推移したことに加えて、タイ現地法人における大規模洪水からの復興需要や日系企業との取引拡大などにより、売上高は前年同期比6.5%増の24億77百万円となりました。

メーリング商品類では、インクジェットプリンターの新商品を立ち上げ、複数案件を獲得しましたが、主力の大型インサーティングシステムの納入の遅れなどにより、売上高は前年同期比39.5%減の2億20百万円となりました。

その他商品類では、前年度子会社化したマイティカード(株)によるRFID事業での大口案件獲得などにより、売上高は前年同期比65.0%増の4億16百万円となりました。

(デバイスセグメント)

デバイスセグメントの売上高は、前年同期比3.7%減の39億75百万円、営業利益は前年同期比3.3%減の1億27百万円となりました。

電子商品類では、ゲーム機市場でシリコンマイクなどが好調に推移しましたが、産業機器市場へのアナログ商品の拡販の遅れなどにより、売上高は前年同期比18.9%減の18億57百万円となりました。

産機商品類では、遊技市場向け機構部品の販売が前年同期から大幅に伸長したほか、中国向けに主力のATM（現金自動預け払い機）向け機構部品の販売が堅調に推移したことなどから、売上高は前年同期比15.2%増の21億17百万円となりました。

(カスタマ・サービスセグメント)

カスタマ・サービスセグメントは、新規保守契約の獲得などにより、売上高は前年同期比微増の10億76百万円となりましたが、サービス向上に向けた外注費の増加などから、営業利益は前年同期比32.0%減の80百万円となりました。

(2)財政状態及びキャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ8億65百万円減少し、174億24百万円となりました。これは、現金及び預金が1億26百万円、商品及び製品が1億円増加した一方で、受取手形及び売掛金が6億79百万円、有価証券が1億97百万円、のれんが1億13百万円減少したことなどによるものです。他方、負債は、前連結会計年度末と比べ7億43百万円減少し、40億44百万円となりました。これは支払手形及び買掛金が3億56百万円、未払法人税等が1億74百万円減少したことなどによるものです。純資産は、配当金の支払などによって、前連結会計年度末と比べ1億22百万円減少し、133億79百万円となりました。自己資本比率は前連結会計年度末から2.9ポイント上昇し、76.0%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ2億26百万円増加し、60億19百万円（前年同四半期連結累計期間と比べ8億55百万円減少）となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期連結累計期間と比べ12億73百万円減少し、1億43百万円のプラスとなりました。これは税金等調整前四半期純利益が1億63百万円となる中、法人税等の支払額2億69百万円、仕入債務の減少3億52百万円があった一方で、売上債権の減少7億8百万円があったことなどによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期連結累計期間と比べ9億3百万円増加し、2億56百万円のプラスとなりました。これは、有価証券の償還による収入2億円、定期預金の払戻による収入1億円などによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期連結累計期間と比べ47百万円減少し、1億68百万円のマイナスとなりました。これは、おもに配当金の支払額1億66百万円によるものです。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の向上に努めていくものでなければならないと考えています。

当社グループは、独立系技術商社として、創業以来「創造」を事業活動の原点に据え、常に海外の先端技術・商品を広く探求し、日本の市場に紹介してまいりました。また、創業から60年を通して、「テクノロジーをとおしてお客様のご満足を高め、技能と人間性を磨いて世界に通用する信頼を築き、力を合わせて豊かな未来を拓き社会に貢献する」企業理念の実現に努めてまいりました。

このような企業理念に基づき、国内各業界の多くの有力企業をお客様とし、海外の有力先端メーカーとの信頼関係、そして海外の先端技術・商品を扱う人材・技術サポート・情報・先端技術探求ネットワーク網などの当社独自の事業ノウハウと快活な先取り精神の社風を築き、持続的な成長により企業価値を高めてまいりました。

当社取締役会は、経営支配権の異動を目的とした株式の大規模買付行為または提案であっても、企業価値ひいては株主共同の利益の向上に資するものであれば、これを一概に否定するものではなく、これを受け入れるかどうかは、原則として、当社株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えています。そのために当社は、大規模買付者及び当社取締役会の双方から当社株主の皆様への必要かつ十分な情報・意見・提案などの提供と、それらを検討するための必要かつ十分な時間が確保される必要があることに加え、株主の皆様をはじめとするステークホルダーのために、当社取締役会による代替案が十分に検討できる機会・時間を確保し、かつ必要に応じて大規模買付者と交渉を行うこと等の当社取締役会の対応を可能とするため、一定の合理的・客観的な仕組みが必要と考えています。

基本方針の実現に資する特別な取組み

当社グループは、独立系技術商社の強みを活かし、事業系列や資本系列に捉われることなく、自らの企業理念に従い、市場ニーズを捉え、迅速かつ闊達に世界の先端商材・技術を発掘し、市場に紹介・提供することこそが、当社の有する優位的経営手法であり、収益と成長の維持拡大に欠かせないこと、ひいては企業価値及び株主共同の利益の源泉と考えています。

現在、当社グループでは、新たな成長戦略の下、「安全・安心・快適」「ビジネスセキュリティ」を事業コンセプトに、「独自の付加価値の創出」と「グローバルビジネスの本格展開」を推し進めております。こうした取り組みにより、強固な収益基盤の構築と事業規模の拡大を図り、企業価値ひいては株主共同の利益向上に邁進してまいります。

また、当社グループは、企業市民として果たすべき「CSR(企業の社会的責任)」を強く認識し、責任ある誠実に透明な経営活動の継続的な実施を通して、あらゆるステークホルダーから信頼される経営を進め、企業価値の向上に努めてまいります。

当社株式の大規模な買付行為に関する対応策(買収防衛策)の仕組み

当社は、平成19年11月6日開催の当社取締役会において、特定株主グループ(注1)の議決権割合(注2)を20%以上とすることを目的とする当社株式等の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株式等の買付行為(いずれも、あらかじめ当社取締役会が同意したものを除きます。本対応策において、このような買付行為を「大規模買付行為」、大規模買付行為を行う者を「大規模買付者」といいます。)に対する対応策(以下、「本プラン」といいます。)の導入を決議し、その後の当社第57回、第59回及び第61回定時株主総会において、その継続を株主の皆様にご承認いただいております。その概要は以下のとおりです。

(a)大規模買付ルールの設定

大規模買付者が、大規模買付行為を行うに際しては、大規模買付者の概要や大規模買付行為の目的及び内容等に関する情報、大規模買付ルールに従うことを誓約する旨の「意向表明書」等を当社取締役会宛に提出していただきます。

(b)当社取締役会の評価・検討

当社取締役会は、大規模買付者からの大規模買付情報の提供が完了した後、一定の期間(以下「取締役会評価期間」といいます。)を設け、当該情報の評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案にあたります。

従って、大規模買付行為は、取締役会評価期間の経過後にのみ開始されるものとします。取締役会評価期間中、当社取締役会は、取締役会から独立した組織として設置された独立委員会に諮問し、かつ外部専門家等の助言を受けながら、提供された大規模買付情報を十分に評価・検討し、独立委員会の勧告を最大限尊重した上で、取締役会としての意見をとりまとめ開示いたします。また、必要に応じ、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、当社取締役会として株主の皆様へ代替案を提示することもあります。

(c)大規模買付行為がなされた場合の対応

当社取締役会が、大規模買付行為の内容を評価・検討し、大規模買付者との協議・交渉の結果、大規模買付行為が以下のような要件に該当し、一定の措置をとることが相当であると判断した場合には、取締役会評価期間の開始又は終了の如何を問わず、新株予約権無償割当て等、会社法その他法令及び当社定款が取締役会の権限として認める対抗措置をとることがあります。

(イ)大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合

(ロ)大規模買付者が企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすような買収行為を行う場合

(ハ)強圧的二段階買収など株主に株式の売却を事実上強要するおそれがある買収行為を行う場合

(ニ)大規模買付者による支配権取得により、ステークホルダーの利益が損なわれ、それによって長期的に企業価値ひいては株主共同の利益が毀損される場合

(ホ)買付けの条件が当社の本源的価値に鑑み不十分又は不適当な買付けである場合

本プランの客観的合理性

本プランが、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、当社の役員の地位の維持を目的とするものではないこと及びその理由として、以下のことが言えます。

(a)買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則(企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則)を完全に充足しています。また、本プランは、経済産業省の企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」を勘案した内容となっております。

(b)株主共同の利益の確保・向上を目的としていること

本プランは、当社株式に対する買付等がなされた際に、当該買付等に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させることを目的とするものです。

(c)株主意思を重視するものであること

本プランは、当社株主総会の決議により継続されたものです。また、本プランの有効期限(平成26年6月開催予定の当社定時株主総会終結の時まで)の満了前であっても、当社株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合は、本プランはその時点で廃止されることになり、その意味で、本プランの消長には、株主の皆様のご意向が反映されることとなっております。

(d)独立した委員会の判断の重視と情報開示

当社は、本プランの採用にあたり、当社取締役会の恣意的判断を排除し、株主の皆様のために大規模買付ルール発動等の運用に際しての実質的な判断を客観的に行う機関として、独立委員会を設置しております。

独立委員会は、当社の業務執行を行う経営陣から独立している、社外取締役、社外監査役、経営経験豊富な企業経営者、弁護士、公認会計士等のいずれかに該当する委員3名以上により構成されます。

当社株式に対して買付等がなされた場合には、独立委員会が、独立委員会規則に従い、大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するか否か等の実質的な判断を行い、当社取締役会はその判断を最大限尊重して会社法上の機関としての決議を行うこととします。

このように、独立委員会によって、当社取締役会が恣意的に大規模買付ルールの発動等の運用を行うことのないよう、厳しく監視するとともに、同委員会の判断の概要については株主の皆様へ情報開示をすることとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合うように大規模買付ルールの透明な運営が行われる仕組みが確保されています。

(e)合理的な客観的発動要件の設定

大規模買付ルールは、予め定められた合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しているものと言えます。

(f)第三者専門家の意見の取得

大規模買付者が出現すると、独立委員会は、独立した第三者(財務アドバイザー・公認会計士・弁護士・コンサルタントその他の専門家を含みます。)の助言を得ることができるとされています。これにより、独立委員会による判断の公正さ・客観性がより強く担保される仕組みとなっております。

(g)デッドハンド型買収防衛策やスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により廃止することができるものとされており、当社の株式等を大量に買付けた者が、当社株主総会で取締役を指名し、かかる取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能です。

従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策)ではありません。

また、当社は取締役の期差任期制を採用していないため、本プランはスローハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策)でもありません。

(注1)特定株主グループとは、当社の株式等(金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等をいいます。)の保有者(同法第27条の23第1項に規定する保有者をいい、同条第3項に基づき保有者に含まれる者を含みます。)及びその共同保有者(同法第27条の23第5項に規定する共同保有者をいい、同条第6項に基づき共同保有者とみなされる者を含みます。)又は、当社の株式等(同法第27条の2第1項に規定する株券等をいいます。)の買付け等(同法第27条の2第1項に規定する買付け等をいい、取引所有価証券市場において行われるものを含みます。)を行う者及びその特別関係者(同法第27条の2第7項に規定する特別関係者をいいます。)を意味します。

(注2)議決権割合とは、特定株主グループが、注1の記載に該当する場合は、当社の株式等の保有者の株式等保有割合(金融商品取引法第27条の23第4項に規定する株券等保有割合をいいます。この場合においては、当該保有者の共同保有者の保有株式等の数(同項に規定する保有株券等の数をいいます。)も計算上考慮されるものとします。)又は、特定株主グループが、注1の記載に該当する場合は、当社の株式等の買付け等を行う者及びその特別関係者の株式等所有割合(同法第27条の2第8項に規定する株券等所有割合をいいます。)の合計をいいます。議決権割合の算出に当たっては、総議決権(同法第27条の2第8項に規定するものをいいます。)及び発行済株式の総数(同法第27条の23第4項に規定するものをいいます。)は、有価証券報告書、四半期報告書及び自己株券買付状況報告書のうち直近に提出されたものを参照することができるものとします。

(4)研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費は、30百万円(売上高比0.4%)であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5)経営成績に重要な影響を与える要因

当社グループの事業運営は、特定分野や特定の大口顧客、また特定のサプライヤーに大きく依存しているのが実情です。従って、そうした特定分野や大口顧客の市況・業況や、大口サプライヤーとのパートナーシップ如何によっては、当社の業績に大きな影響が及ぶ可能性があります。

(6)戦略的現状と見通し

わが国経済は、復興関連需要などにより底堅さもみられますが、国内外の経済は依然として極めて変化しやすい状況にあり、当社を取り巻く事業環境も主要顧客、取扱商品の特性から不安定な状況にあります。

数年来、当社で掲げてきた「収益基盤の再構築」は経営効率の面においては売上総利益率の改善、業務効率の改善による運用コスト低減、戦略的な組織体制の構築などによって一定の成果を上げることができました。現在は「独自の付加価値創出」、「グローバルビジネスの本格展開」を中期事業方針に掲げ、既存事業における新商品・新市場の開発から、海外事業の拡大、新規事業の立ち上げを行うことで、持続的な成長の実現に邁進しております。

前年度は2社の子会社化により、東南アジア地域の事業拠点を獲得し、また国内外の成長分野であるRFID事業分野への参入もはたしました。今後はこれらの買収事業と既存事業とのシナジーを形成しながら事業成長を確実に実行してまいります。

(7)資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの当第2四半期連結累計期間における資金状況は、現金及び預金が、前連結会計年度末と比べ1億26百万円増加し66億19百万円となりました。これは支払手形及び買掛金が3億56百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が6億79百万円、有価証券が1億97百万円減少した事が主な要因であります。法人税等の支払いなどによる運転資金の需要増については手許流動資金（現預金）で賄っております。

商社活動の中では、一時的にまとまった運転資金が必要となる場合がありますが、現在の資金残高は、当面の事業活動を考慮しても、流動性が確保できております。

(8)経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、金融・製造・情報通信・小売業など幅広い業界を市場としており、一部に底堅さがあるものの全体としては依然として厳しい市場環境下にあります。当社グループでは、企業理念の「技術」と「創造」に基づき、常にお客様にとっての「付加価値」を追求しお客様のご要望に添えていくことが、あらゆる環境下での「ハイ・パフォーマンス」経営に通じると考え、「ビジネスセキュリティ」を事業コンセプトに「安全・安心・快適」なソリューションの実現に努めてまいります。

なお、中長期的に目標とする経営指標については、経営環境を見極め設定してまいります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,000,000
計	36,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,140,300	10,140,300	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株 であります。
計	10,140,300	10,140,300	-	-

(注) 提出日現在発行数には、平成24年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	10,140,300	-	1,193,814	-	1,156,268

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社マースエンジニアリング	東京都新宿区新宿1-10-7	804	7.92
セコム株式会社	東京都渋谷区神宮前1-5-1	450	4.43
日立オートモティブシステムズ株式会社	東京都千代田区大手町2-2-1	380	3.74
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1-3-3	300	2.96
栃本京子	東京都港区	300	2.95
山村秀彦	東京都稲城市	268	2.64
株式会社マーストーケンソリューション	東京都新宿区新宿1-10-7	265	2.61
竹田和平	愛知県名古屋市中天白区	241	2.38
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	216	2.13
高千穂交易従業員持株会	東京都新宿区四谷1-2-8	214	2.11
計	-	3,440	33.92

(注) 当社は、自己株式349,669株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 349,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,776,400	97,764	-
単元未満株式	普通株式 14,300	-	-
発行済株式総数	10,140,300	-	-
総株主の議決権	-	97,764	-

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式 数(株)	他人名義所有株式 数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
高千穂交易株式会社	東京都新宿区四谷 1-2-8	349,600	-	349,600	3.44
計	-	349,600	-	349,600	3.44

(注) 株主名簿上、当社名義となっており、実質的に所有していない株式はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,492,784	6,619,696
受取手形及び売掛金	5,346,642	4,667,313
有価証券	1,197,384	999,576
商品及び製品	2,026,060	2,126,419
その他	410,291	413,151
貸倒引当金	14,395	16,189
流動資産合計	15,458,767	14,809,966
固定資産		
有形固定資産	499,904	495,815
無形固定資産		
のれん	997,562	883,945
その他	173,386	155,004
無形固定資産合計	1,170,949	1,038,950
投資その他の資産		
投資有価証券	493,446	448,858
その他	684,102	646,954
貸倒引当金	16,629	15,868
投資その他の資産合計	1,160,919	1,079,944
固定資産合計	2,831,773	2,614,710
資産合計	18,290,541	17,424,677

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,563,583	2,206,588
未払法人税等	261,037	86,576
賞与引当金	289,761	270,556
役員賞与引当金	18,033	14,613
その他	761,722	643,993
流動負債合計	3,894,136	3,222,328
固定負債		
退職給付引当金	741,491	743,667
その他	153,099	78,951
固定負債合計	894,590	822,618
負債合計	4,788,727	4,044,947
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,193,814	1,193,814
資本剰余金	1,156,397	1,156,397
利益剰余金	11,357,070	11,233,148
自己株式	298,239	298,239
株主資本合計	13,409,042	13,285,121
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43,619	49,677
繰延ヘッジ損益	-	237
為替換算調整勘定	81,464	84,916
その他の包括利益累計額合計	37,844	35,475
新株予約権	16,476	20,097
少数株主持分	114,139	109,986
純資産合計	13,501,813	13,379,729
負債純資産合計	18,290,541	17,424,677

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	8,143,642	8,166,390
売上原価	5,918,924	5,807,655
売上総利益	2,224,717	2,358,734
販売費及び一般管理費	1,909,139	2,163,752
営業利益	315,578	194,981
営業外収益		
受取利息	6,679	3,886
受取配当金	7,003	6,858
為替差益	-	13,076
受取保険金	561	1,422
その他	4,876	5,072
営業外収益合計	19,120	30,316
営業外費用		
支払利息	693	621
為替差損	17,239	-
支払手数料	596	596
その他	443	124
営業外費用合計	18,972	1,342
経常利益	315,726	223,955
特別損失		
投資有価証券評価損	94,705	60,287
特別損失合計	94,705	60,287
税金等調整前四半期純利益	221,020	163,667
法人税、住民税及び事業税	141,142	79,153
法人税等調整額	16,376	42,230
法人税等合計	157,519	121,383
少数株主損益調整前四半期純利益	63,501	42,283
少数株主損失()	0	235
四半期純利益	63,501	42,519

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	63,501	42,283
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20,550	6,058
繰延ヘッジ損益	-	330
為替換算調整勘定	29,020	7,275
その他の包括利益合計	8,469	1,548
四半期包括利益	55,031	40,735
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	55,286	44,888
少数株主に係る四半期包括利益	255	4,152

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	221,020	163,667
減価償却費	45,520	50,384
投資有価証券評価損益(は益)	94,705	60,287
のれん償却額	3,605	102,032
受取利息及び受取配当金	13,682	10,744
支払利息	693	621
賞与引当金の増減額(は減少)	30,866	18,977
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,723	1,438
退職給付引当金の増減額(は減少)	7,472	4,471
売上債権の増減額(は増加)	802,396	708,631
たな卸資産の増減額(は増加)	191,921	102,471
仕入債務の増減額(は減少)	243,332	352,159
その他	26,410	205,423
小計	1,579,306	401,758
利息及び配当金の受取額	14,218	11,212
利息の支払額	693	621
法人税等の支払額	176,027	269,318
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,416,803	143,031
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	-	100,000
有形固定資産の取得による支出	48,684	20,416
有価証券の償還による収入	-	200,000
投資有価証券の取得による支出	200,234	270
無形固定資産の取得による支出	34,318	27,184
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	365,337	-
その他	978	3,977
投資活動によるキャッシュ・フロー	647,596	256,105
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	121,584	166,140
その他	997	2,385
財務活動によるキャッシュ・フロー	120,587	168,526
現金及び現金同等物に係る換算差額	16,280	3,699
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	632,339	226,911
現金及び現金同等物の期首残高	6,242,907	5,792,784
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,875,247	6,019,696

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、これによる損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
給与・手当	626,230千円	701,791千円
賞与引当金繰入額	234,339	236,570
役員賞与引当金繰入額	15,480	13,861
退職給付費用	46,218	52,337
賃借料	196,604	211,879

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	7,375,247千円	6,619,696千円
有価証券勘定に含まれる譲渡性預金	500,000	500,000
預入期間が3か月を超える定期預金	1,000,000	1,100,000
現金及び現金同等物	6,875,247	6,019,696

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	121,368	12	平成23年3月31日	平成23年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月7日 取締役会	普通株式	121,368	12	平成23年9月30日	平成23年12月5日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	166,440	17	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月5日 取締役会	普通株式	117,487	12	平成24年9月30日	平成24年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	システム	デバイス	カスタマ・サービス	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	2,942,417	4,128,426	1,072,797	8,143,642	-	8,143,642
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,942,417	4,128,426	1,072,797	8,143,642	-	8,143,642
セグメント利益	70,110	131,329	118,429	319,869	4,291	315,578

(注)1.セグメント利益の調整額 4,291千円には、連結調整額2,124千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 6,416千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(注)2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	システム	デバイス	カスタマ・サービス	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	3,114,400	3,975,012	1,076,977	8,166,390	-	8,166,390
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	3,114,400	3,975,012	1,076,977	8,166,390	-	8,166,390
セグメント利益又は損失 ()	14,057	127,048	80,519	193,510	1,471	194,981

(注)1.セグメント利益又は損失の調整額1,471千円は、連結調整額であります。

(注)2.セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(注)3.システムセグメントのセグメント利益又は損失 14,057千円には、のれん償却額102,032千円が含まれております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	6円28銭	4円34銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	63,501	42,519
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	63,501	42,519
普通株式の期中平均株式数(株)	10,114,067	9,790,631
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	平成23年7月22日取締役会決議 ストックオプション (新株予約権 129個) 普通株式 193,500株 この概要は、「第3 提出会社の状況 1 株式等の状況(2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年11月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....117,487千円

(ロ) 1株当たりの金額.....12円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成24年12月4日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月8日

高千穂交易株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡村 俊克 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 栄司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている高千穂交易株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、高千穂交易株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。